

## 南仏事件情報（2015年12月）

### （1）テロ関係

- 非合法の祈祷所が閉鎖（3日、アルプ・マリタイム県）

3日、内務大臣は、イル・ドゥ・フランストリヨン近郊にある3つの過激化したモスクを閉鎖したと発表した。また、ニースにある非合法の祈祷所4カ所を閉鎖したことも言及した。この閉鎖は暫定的なもので、「緊急事態」期間中継続されることになる。

- テロ容疑でカップルを拘束（21日、エロー県）

21日、モンペリエ市で、23歳女性と35歳男性がテロ容疑で拘束された。妊婦に偽装して物体を隠すことができる特殊なベルトが発見されたためである。このベルトは手製で、金属探知をかいくぐることができる構造だった。同人らの家からは爆発物は発見されなかったが、PCからはジャーディストの写真や爆破装置の作り方を検索した形跡があった。

### （2）殺人

- 警察官殺害、犯人は自殺（7日、ヴァール県）

7日夜、キャヴァレール・シュル・メール市近郊で、警察官が65歳の男から銃撃され、死亡した。「家庭内の諍い」という通報により市警察官3人が現場に臨場したところ、男から銃撃を受け、1人が死亡し1人が軽傷を負った。犯人は逃走した。当局は100人以上を動員して捜索したところ、8日18時頃、パトロール中の憲兵隊が発見した。犯人は憲兵隊員に向け2発発砲したのち、自分の頭を打ち抜いて自殺した。憲兵隊員に怪我はなかった。

- 裸の死体が発見される（20日、エロー県）

20日13時頃、マルセイヤン市の海岸に向かう運河の橋の下で、若い女性の死体が発見された。捜査の結果、女性はモンペリエ市に住む21歳のナイジェリア人女性で、売春婦だったことが判明した。死体には暴行の跡は発見されず、死因は判明していない。

### （3）その他特異事件等

- ラ・シオタ市が脅迫被害（18日～、BdR県）

18日19時45分頃、ラ・シオタ市で、同市市長夫人が自宅で2人の

男から脅迫される被害に遭った。犯人は覆面を被っており、市長宅の庭に侵入した後、「自分たちの生活の糧を奪うような施策を12月31日までに止めなければ、市長と夫人を殺す。」などと脅迫した。

20日23時30分頃、ラ・シオタ市助役宅に銃弾が撃ち込まれた。シャッターには20数発、車のボンネットには6発の弾痕が発見された。犯人は2人組で、車に乗って助役宅に現れ、敷地内に侵入した後銃撃を行ったのち、逃走した。

28日午前3時頃、ラ・シオタ市役所の出入口ドアに複数の銃弾が撃ち込まれた。

29日には、上記助役が滞在していたホテルの玄関が銃撃された。

- 警察官等への暴行、イスラム教祈祷所への破壊行為（24日～、コルス・デュ・シュド県）

24日夜、アジャクシオ市で、放火現場に駆けつけた消防士2名と警察官1名が、若い男から暴行を受けて負傷した。これを受け、25日、同市所在のイスラム教の祈祷所が破壊された。これらの事件について警察は捜査を開始しており、2人を逮捕している。

- 病院の医療機器が破壊される（31日、ヴォクリューズ県）

31日、アヴェイヨン市の病院で、病棟の電気施設、技術室や立入禁止区域にある機器が破壊されているのが発見された。43人の入院患者は別の病院に移送された。警察の科学捜査隊による捜査が開始されている。

- 大晦日に自動車804台が放火被害（31日、全仏）

31日から1月1日にかけて、フランス全土で804台の自動車が発火された。前年比14.5%（前年940台）。622人が拘束（interpellation）され、うち368人が拘留（garde a vue）された。被拘束者・被拘留者はともに昨年の約2倍であった。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報をもとにまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。